



山岳展望

奥武蔵・丸山から見える北アルプス

遠山元信

昭和46年6月、戦後のクライミング主流の日本登山界に矢を放ったような本が発行された。書名は『東京から見える山見えた山』(横山厚夫著。丸の内出版発行)。当時、登山関係の本としては異色な存在だった。

この本が戦後の山岳展望分野におけるバイブル的な文献になり、地理の分野から藤本一美氏と田代博氏、写真印刷の分野から平野武利氏などが台頭、その数々の研究成果を見ても判る。戦前の木暮理太郎と中村清太郎の「東京から見える山々」の30年にわたる研究が著名だっただけに、それまで戦後の研究者の追々を許さなかったのであろう。

この『東京から見える山見えた山』が発行された直後、その中で紹介されていた奥武蔵・丸山(960・3m)から「北アルプスの鹿島槍から白馬岳へかけての後立山の稜線が見える」と言う、昭和18年に発行された『登山講座 第五巻』の正井暉雄氏の記録の引用を読み、「まさか!。なぜ奥武蔵から後立が見えるんだ。見える訳が無いだろう」という疑問が残り、いつになっても忘れることはなかった。

それから10年以上経た昭和58年頃になり仕事の関係で遠くの山に行かなくなると、見える山が鹿島槍から白馬岳方面なら山形から簡単に判ると考え行動を開始した。しかし当時は遠望の世界に挑戦している人は殆どいなかったため技術や方法論が違うことすら知られておらず、何をやるにも試行錯誤の連続であった。その結果、約5年を要し昭和63年11月に北アルプ

スを確認、見えたら記録と違っていた山だったため山座同定に約半年の時間を要した。この見えるまでの条件を確立するまでの過程、見えてからの山座同定への苦労を詳細に報告すれば面白いのだが、近年は現場に行かず机上のパソコンソフトに頼る山岳展望が一般化したため、ここでの紹介は避けておく。

結論は「鹿島槍から白馬岳へかけての後立山の稜線が見える」ではなく、同じ北アルプスでも「槍ヶ岳周辺と表・裏銀座の一部が見えた」のであった。これらについて『続・展望の山旅』(1990年12月初版。藤本一美・田代博共編著)の「丸山(大丸山)」と、『地図の友』(1990年第32巻第4号)「地図を利用した山岳超遠望の楽しみ」(田代博執筆)にも紹介された。ところが平成8年正月になり、過去の記録を再確認しなくてはならないような事件が発生した。丸山から見える山はほぼ同じであったが、見える山々が普段より前衛峰上に高く見える一種の層気楼状態と遭遇したのである。傍にある堂平山からは、計算上見えない筈の穂高も確認でき、一緒に同行していた仲間が撮影した写真が『山と溪谷』(平成8年3月号)の「Yamakei Journal」に、以前私が撮影した写真と比較のために紹介された。

山岳展望の醍醐味は見える山と対峙することだろうが、丸山は山岳展望だけでなく、日の出前から西上州の稜線上だけが北アルプスの雪の白さでほの白く光り、天空の限りなく黒に近いスカイブルーの大スペクトラムと融合でき、前日から山頂にビバークして待機した人にだけ与えられる天からの恵みに、丸山が他の山と違うことに気が付くことだろう。



コラム

伊能忠敬測地遺功表

第一回読図研修にて思いがけず出会った伊能忠敬遺功表は芝東照宮の裏手、芝公園の円山古墳の最高部にありますが当初は芝高輪大木戸に建てる予定だったとの事

明治22年(1889)東京地学協会が建立。戦時中の金属回収政策によって取り壊されたが昭和40年(1965)に再建。日本地図と忠敬を称える碑文が刻まれている。2枚の石板でできた碑の形は、忠敬(中啓:ちゅうけい=扇の一種)をもじって作られたのだそうです。彫刻家・円鋸勝三の作



伊能忠敬測地遺功表の碑にて(第1回読図研修)9/9

**第1回読図研修報告 暑い都心を歩く**

寺田 正夫

第1回の読図講座は地図を見ながら都心に残存している測量遺跡を巡るもので、9月9日(土)白金高輪駅に15名が集まり好天の暑い中をスタート。まずは白金・西光寺へ向う。「南無阿彌陀佛」と書かれた石塔の左下に“不”の印を発見。百年以上前に内務省が地図のために刻んだ高さを示す印“凡号水準点”だ。漢字の“不”に似ているので“不号水準点”ともいわれる。

次に国道1号を横浜方面に向かい覚林寺の入口にある“清正公大神義”と書かれた石碑の左下の“不”を発見、そして高輪の泉岳寺を経て高輪大木戸跡の国道に面した石垣の下の凡号や水準標石を確認しながら、ひたすら暑さに耐えながら歩く。

東京タワーのレストランで昼食後、芝東照宮の鳥居右下の“不”を確認、その西側にある円山古墳の高台に登った。ここに伊能忠敬測地遺功表を見つけ、記念写真を撮った(1P写真)さらに日本経緯度原点、東京大正一等三角点、ロシア大使館前凡号、神谷町八幡神社凡号、愛宕山の愛宕神社の凡号水準点、三角点などを確認したのち最終目的地、国会議事堂前庭の日本水準原点へ。その近傍にある甲乙丙丁の水準点を見つけ、約12kmの都心歩きが終了。

遠い明治初期、日本が近代国家へと変る当時の地図作りへの熱い心意気を感じた、暑い一日だった。

打上げでの生啤酒の旨さに感涙!

第2回読図研修は11月10日(土)に予定しています

**行ってきました! 会員の山行報告**

**交点ハンティングに参加 羽鳥 和江**

去る7月8日(日)に、読図の勉強を兼ねた交点ハンティングするという企画に参加してきました。

日本の交点(ゼロポイント:経度で00 00.0 と緯度00 00.0)は92個中37個が踏破されているらしく、残念なことに最初に踏破しているのは外国人が多いらしい。関東には栃木県那須塩原市のN37°E140°茨城県つくばみらい市のN36°E140°埼玉県秩父郡小鹿野町のN36°E139°の3個があるそうです。道なき道をGPS片手に交点を目指す交点ハンターという人達がいることをはじめて知りました。交点ハンターとは探し出した交点の現場写真をthe Degree Confluence ProjectというWEBサイトに投稿する遊びだそうです。

今回は埼玉県秩父郡小鹿野町にある交点を目指しました。藪こぎ覚悟で行ったのですが、途中まで釜ノ沢五峰トレッキングと名前がついているハイキングコースを布沢峠へ岩場を楽しみながら進みました。でも読図の勉強に來たのですから地形図とコンパス、高度計を使い地形を視ながら、各ポイントではGPSで緯度経度を確認、記録しながら進みました。布沢峠からはハイキングコースを離れ、幾つかのピークを越え、3つ目のピーク(N35°59'59.5 E138°59'58.2)に荷物を置いてGPSを頼りに200mほど下降し、T字型の支柱を発見。しかしGPSはゼロを示さず、実際にゼロを示したのは数メートル離れた場所でした。しかも森の中の為かGPSの値は非常に不安定でなかなか00 00.0にならず数十分ねばって、やっと証拠写真が撮れました。



GPSの表示

しかし、交点ハンターをするにはGPSとデジカメが必須で、

私はそのようなハイテク機器をまだ持っていないことにレポートを書きながらはじめて気が付きました。

**【交信できました】** 9月15日赤岳・横岳山頂に立った羽鳥さんと、アマチュア無線で筑波山中継所経由の交信ができました。八ヶ岳は赤岳から真東の線よりも北側で、上越・長野新幹線よりも東側の栃木県宇都宮市よりも南が関東平野からの可視領域となります。場所によって前衛峰に隠れますが、この領域内であれば中継所を利用しなくても八ヶ岳稜線と交信可能となります。(遠山)

**図書・資料の紹介**

**新刊: 地図出版の四百年** 京都大学大学院文学研究科地理学教室・京都大学総合博物館編 加2次出版 ¥2,800 - 地図の変化の歴史を江戸時代から現代に辿る。図版が多く、見るだけでも興味深い。(近藤)

**例会の議事録**

2007年9月5日(水) 19:00~20:10 於: JAC 集会室A 出席12名(北野、平野、近藤、羽鳥、鶴田(三)、鶴田(四)、遠山、山崎、井上(ア)、井上(イ)、植木、今井)(順不同)

**内容:** 1. 分水嶺踏査記録をもう少し詳しい記録を残したい。執筆担当は別紙「山岳地理クラブ」記録右欄外の指名者とし、10月末日を締め切りとして近藤会員まで提出のこと。(北野・近藤) 2. 図書室の地図整理の件は図書管理委員会から協力要請があった。8月8日に平野、近藤両会員が2階201号室へ25冊分の移動を手伝った。貴重な地図もある模様。整理第1回は10月3日に行うので都合の良い会員はよろしく。(近藤) 3. 11月のAGC例会は部屋の都合で14日第2水曜日に変更する予定なので注意願いたい。(北野)

終了後「鯨の家」にて懇親会(10名) (記録・今井)

**お知らせ**

**地図の整理を行います** 前号でお知らせしましたJAC所蔵の地図の整理を10月3日PM3:00から実行いたします。種類、図幅名、縮尺、測量、発行年などをリスト化し、マップケースの保管場所を明確にしようとするものです。農商務省地質調査所、陸軍参謀本部陸地測量部などが作成した明治期のもので推定約2000枚ぐらいいあります。毎月次の日を定例の整理実施日といたします

第一水曜日、15:00~18:00 (初回10月3日)

第三水曜日、17:00~20:00

整理方法等は当日近藤から説明いたします。

参加可能な方は上記時間に201号室においでください。

**次回の例会**

日時 **10月3日(水)** 18:30から  
場所 山岳会 ルーム  
テーマ: 読図研修報告、第2回の計画ほか  
例会終了後の懇親会も是非出席ください  
なお、同日15:00より201号室にて地図整理を行います

**編集後記**

> 読図研修は残暑の都会オキキ。みなさんお疲れさまでした。次回が楽しみです。> 分水嶺の記録はAGCレポートの特別号として今年度中に発行したいと思います。参加された方全員に原稿をお願いしていますので宜しく(kon)

AGCレポート vol-3 2007年9月26日発行  
発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ  
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付  
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441  
編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com